

シンポジウム 1 (技術部会企画) SY1-2 当院の新人教育方法と現状の問題について

寺島和宏¹⁾ 牧口 慧¹⁾ 磯邊勇輔¹⁾ 古澤 剛¹⁾

石井智樹¹⁾ 菅野将也¹⁾ 廣谷暢子¹⁾ 副島 徹¹⁾

高倉照彦¹⁾ 鈴木信哉²⁾

- [1] 亀田総合病院 ME 室
- [2] 亀田総合病院 高気圧酸素治療室 部長

【はじめに】

亀田総合病院では1984年より高気圧酸素治療(HBO)を導入し、現在は第2種装置を運用している。HBO業務は保守管理部門が兼任し、医療機器点検や手術支援なども担当している。新人教育は専門技師の資格を有する者としている。

2024年にはカイロ持ち込みによる重大事故が発生し、安全対策の重要性が再認識された。

【教育体制】

新人教育は3週間にわたり実施される。初週は指導者2名と新人1名の3名体制で、業務の流れ、基本的な装置操作、カルテ記載・書類の作成・伝票処理、台帳入力、治療後清掃、緊急時操作、治療中の患者観察を指導。2週目以降は実践を通じて業務習得を図り、評価表に基づき進捗を確認。指導者が変わっても教育内容に差異が生じないよう、評価項目は細かく設定している。



【検討事項】

1. 短期間(3週間)に HBO を理解は困難であり、教育期間の延長が必要な場合もある。
2. 指導後に新人からの質問や疑問が少なく、理解度の把握が難しい。
3. 技術面の評価を優先する必要がある。また、知識面は教育を受ける側の自覚がなければ習得が不十分な傾向がある。

4. 災害や停電など、通常の教育では対応困難な事態に備えるため、シミュレーション訓練・勉強会を開催する必要性がある。

【安全対策】

1. 発火源となるカイロなどの持ち込みを禁止するため、入室前の持ち物チェックを徹底。
2. 業務固定ではなくローテーション体制での工夫の必要性。
3. HBO を学んでいない技士の新人教育の徹底。
4. 学会認定の専門技師の取得を必須とする。

【まとめ】

HBO 業務は高い安全性が求められるため、新人教育の充実が不可欠である。持ち物チェックの徹底、教育体制の見直し、シミュレーション訓練の導入など、今後も継続的な改善が必要である。学会認定技師の取得を必須とし、教育の質を高める取り組みが求められる。